

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 73

学校名・団体名	亀山市立白川小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	炭焼きを再現し、炭焼き小屋周辺を整備しよう

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

白川小学校は、昭和28年に建設された木造校舎である。平成21年に校舎が国登録有形文化財に指定された。そのような学校で子どもたちが学ぶのは、三重県では本校のみである。

白川地区では、以前炭焼きが盛んであった。小学校にも炭焼き小屋がある。子どもたちの体験学習に地域と保護者で15年前に造った。その後、指導者の高齢化により、10年間炭を焼くこともなく、窯の破損もひどく、景観上もよくなかった。昨年度、白川地区まちづくり協議会に話をし、炭焼き小屋の修復と炭焼き体験を行った。本年度は、炭焼き窯の焚口が狭いので修復し、広くして入りやすくすることと、樫炭・竹炭焼きとともに、化粧炭（野菜や栗のいが・松かさ等形を残した炭）に挑戦し、炭焼きのよさを児童に伝えたいと考えた。炭窯がある学校も本校だけではないかと思う。

炭焼き小屋の近くに、幹が大人の手で二回りほどのある桜の大木がある。本年度5月にその周辺の草が生えていたところを整地した。本年度からコミュニティスクールが始まり、この場所を有効活用できればという話が出た。そこで、その周りの環境を整備して、子どもたちが野外活動をし、桜の大木を囲んで地域の人も安らげる場所を作れたらとピザ窯を中心に据え、整備を進めることになった。

ピザ窯ができたら、ピザ窯がある学校も本校だけではないかと思う。

このような、他校にない、本校の特色を生かした地域と連携した環境整備と体験を通した学びができるように計画を考えた。



2. 時期

- 5月 炭窯の修復活用と広場の整備をコミュニティスクールの会議で話し合う
- 6月 ピザ窯製作開始
- 7月 建設労働組合の奉仕作業があり、広場に置く机を2基作っていただいた。
- 8月 ピザ窯完成
- 9月 整地した部分の整備（除草・肥料入れ・芝生の種まき）
- 10月 芝生追肥 化粧炭材料集め 炭窯の修復
- 11月 亀山市産業振興課森林林業グループの木工教室で、いすを5基作った。芝生が芽生え、緑色の部分が目立ってきた。ピザ窯を使って全校で焼き芋大会 その後、職員で、いすや机のニス塗りをし、設置する部分の腐食防止に土台を入れた。化粧炭づくり 組み立ててかまどができる円柱ブロック作成
- 12月 化粧炭づくり
ピザ窯を使って全校ピザ大会
広場の名前を「自然・笑顔 たくさん広場」と児童会で考え披露
- 1月 竹炭づくり 広場づくりの経緯を書いた木の看板の取り付け
- 2月 竹炭と化粧炭を組み合わせてかざりづくり 竹炭で花を植える 鉢づくり 樫炭づくり もう一度、椅子にニスを塗り
- 3月 消し炭入れ場完成 樫炭の取り出し



3. 活動内容

(1) 炭焼きに挑戦。失敗を乗り越えて

炭焼きほど経験がものをいうものはないと思った。化粧炭は焼くものによって、水分や重さがちがう、すべてのものを同じに焼くのは難しく、調整が必要である。また、煙を見て焼け具合を判断するが、時期を逃すと、炭から灰になってしまう。11月に化粧炭に挑戦したが、灰になってしまった。

そこで、次に炭窯の中で焼くものの状態を見て、焼いたらどんぐりやクルミなどその形を残して炭ができた。さらにもみ殻を焼く中で化粧炭に挑戦したり、一斗缶を使って化粧炭づくりに挑戦したりした。火加減を見ながら焼くと、栗のいがまできれいに焼けた。さらには、椿の葉を炭にすることもできた。12月から1月には、竹炭に挑戦した。煙の色が白から青白い透明の状態になったのでいいのかなと思って空気を遮断。2週間後に温度が下がり、取り出してみると、もうあと一步焼きが回らず、黒光りした、半分炭化したいぶし竹のような状態になったものが多かった。しかしそれはそれで趣もあり、化粧炭を入れる入れ物にはよいものになった。その竹を、いろいろな形に切ってもらい、子どもたちは、化粧炭をいれて飾った。また、植木鉢にし、育てたパンジーやビオラを植えた。卒業式に飾る。

2月には、地域の中で数少ない経験者の指導の下、樫炭を焼いた。子どもたちは、木入れを行った。

子どもたちは、外に置いてあった樫の木がすべて、炭窯に入ったのに驚いていた。その後、火入れ。煙突から煙が出る様子を見守っていた。翌日も興味深く見ていた。また、煙突から木酢液が取れるようになっていて、ぼたぼたと液が落ちてくるのを不思議に見ていた。2晩たつて、煙突から出る煙の色が青く透明になったので空気を遮断し、煙突と焚口をふさいだ。それから2週間、炭窯の温度が下がるのを待った。そして、樫炭をとりだした。

(2) 『自然・笑顔 たくさん広場』づくり

整地した土地は、台形の形になっており、その一番奥にピザ窯を造ろうと計画した。それは、炭窯と同様にドーム型のピザ窯を置くことにより、ドームの形が物を焼く熱効率がいいことを感じてほしいこと、ピザ窯は、ピザだけでなく多用途に使い、毎年実施してきた焼き芋もこの窯を利用することでおいしく焼ける。また、パンやオープン料理にも利用できると思ったからである。

ピザ窯の製作は、技能を生かして、今年から配置されたコミュニティースクールの事務が中心になりあたってくれた。職員で手伝いながら、8月末に完成させた。

また、学校に円柱型のコンクリートで中がドーナツのように空洞になっているものがたくさんあったこれにコンクリートを詰めた。30個作った。これを組み合わせることにより、簡単なかまどができるようにした。

さらに、ピザ窯でピザを焼いてでたあとの消し炭を入れておくところが必要だったので、広場の端に穴を掘り、鉄板で蓋ができるようにしてその場所をつくった。

この広場には、子どもたちが芝生の種を播いた。また、机を建設労働組合の奉仕作業でお世話になり2基作っていただいた。

また、いすを5基、亀山市産業振興課森林林業グループの木工教室で子どもたちがつくった。

そして、みんなが親しめるよう、この広場の名前を、児童会で考えた。



4. 子どもたちへの効果

・白川地区で行われていた炭焼きについて体験を通して学ぶことができた。また、炭焼きには、経験で培われてきた技術があることを感じ取れた。

・自然を生かした白川小学校の環境が整備された。芝生の種まきやいす作り、広場の名前を考えることで、自分たちでつくったという思いが持てた。

・整った環境で野外活動ができた。ピザ窯ができたことで、ピザだけでなく、焼き芋も焼くことができた。今後、パン焼き等活動の幅が広がる。

・児童だけでなく、保護者・地域の方々との交流の場となることを期待したい。特に3月末から4月にかけての桜の頃に花見を楽しみながら交流できるといい。

・ドームの形が熱を蓄積するのにいかに効率的かをピザ窯・炭窯をとおして考える機会になった。

